

年収200万円未満の20代男性 結婚「1割」

年収200万円未満の20代男性が結婚する割合は1割程度——。そんな調査結果が、厚生労働省が9月29日に公表した2023年版「労働経済の分析（労働経済白書）」にまとめられた。白書では、この結果について「少子化を克服していく観点からも、若年層を中心に賃金を引き上げていくことが重要だ」と指摘する。

労働経済白書は、経済や雇用、労働時間などの現状や課題について統計データを使って分析したもので、毎年公表されている。今年も、賃金

労働経済白書

動向に関する分析に重点が置かれた。白書では年収と結婚の関係について、収入別に13年から5年間を調査し、この間に結婚した割合を分析した。

21～25歳の男性では、年収が200万円未満の場合に結婚した割合は約1割にとどまった。一方、300万円以上になると割合は約3割に高まった。26～30歳の男性でも、年収200万円未満は約1割だった一方、300万円以上になると約4割になった。女性についても、年収が高いほ

ど結婚する割合が高い傾向が見られたが、男性ほど、年収と結婚に強い関係性は見られなかった。

さらに年収などが結婚する確率に及ぼす影響を調べたところ、男性では年収が500万円以上になると、200万円未満と比べて結婚する確率が16%ほど上がる効果も確認された。女性も年収が高いほど結婚する確率も高まった。

また、雇用形態による関係では男女ともに正規雇用は、非正規に比べて結婚する確率を引き上げる効果が見られた。白書でも「男女ともに、結婚相手に対して安定した雇用形態を望む傾向が考えられる」と評価した。

(三浦惇平)